TADOKU JUNIOR　イギリスの昔話　★★★☆☆ ふつう　639語

# Mr. Miacca

## ミアッカさん

Joseph Jacobs（1890年の本）　**原文そのまま**　朗読：Joy Chan

人の声の朗読
を聞く・Web版

**どんなおはなし？**　悪い子になると、つい通りの角を曲がってしまうトミー。でも、そこにはこわいミアッカさんが待っていて……。トミーのとんちが光ります。



Tommy Grimes was sometimes a good boy, and sometimes a bad boy; and when he was a bad boy, he was a very bad boy. Now his mother used to say to him: “Tommy, Tommy, be a good boy, and don't go out of the street, or else Mr. Miacca will take you.” But still when he was a bad boy he would go out of the street; and one day, sure enough, he had scarcely got round the corner, when Mr. Miacca did catch him and popped him into a bag upside down, and took him off to his house.

When Mr. Miacca got Tommy inside, he pulled him out of the bag and set him down, and felt his arms and legs. “You're rather tough,” says he; “but you're all I've got for supper, and you'll not taste bad boiled. But body o' me, I've forgot

the herbs, and it's bitter you'll taste without herbs. Sally! Here, I say, Sally!" and he called Mrs. Miacca.

So Mrs. Miacca came out of another room and said: "What d'ye want, my dear?"

"Oh, here's a little boy for supper," said Mr. Miacca, "and I've forgot the herbs. Mind him, will ye, while I go for them."

"All right, my love," says Mrs. Miacca, and off he goes.

Then Tommy Grimes said to Mrs. Miacca: "Does Mr. Miacca always have little boys for supper?"

"Mostly, my dear," said Mrs. Miacca, "if little boys are bad enough, and get in his way."

"And don't you have anything else but boy-meat? No pudding?" asked Tommy.

"Ah, I loves pudding," says Mrs. Miacca. "But it's not often the likes of me gets pudding."

"Why, my mother is making a pudding this very day," said Tommy Grimes, "and I am sure she'd give you some, if I ask her. Shall I run and get some?"

"Now, that's a thoughtful boy," said Mrs. Miacca, "only don't be long and be sure to be back for supper."

So off Tommy pelters, and right glad he was to get off so cheap; and for many a long day he was as good as good could be, and never went round the corner of the street. But he couldn't always be good; and one day he went round the corner, and as luck would have it, he hadn't scarcely got round it when Mr. Miacca grabbed him up, popped him in his bag, and took him home.

When he got him there, Mr. Miacca dropped him out; and when he saw him, he said: "Ah, you're the youngster what served me and my missus that shabby trick, leaving us without any supper. Well, you shan't do it again. I'll watch over you myself. Here, get under the sofa, and I'll set on it and watch the pot boil for you."

So poor Tommy Grimes had to creep under the sofa, and Mr. Miacca sat on it and waited for the pot to boil. And they waited, and they waited, but still the pot didn't boil, till at last Mr. Miacca got tired of waiting, and he said: “Here, you under there, I'm not going to wait any longer; put out your leg, and I'll stop your giving us the slip.”

So Tommy put out a leg, and Mr. Miacca got a chopper, and chopped it off, and pops it in the pot.

Suddenly he calls out: “Sally, my dear, Sally!” and nobody answered. So he went into the next room to look out for Mrs. Miacca, and while he was there, Tommy crept out from under the sofa and ran out of the door. For it was a leg of the sofa that he had put out.

So Tommy Grimes ran home, and he never went round the corner again till he was old enough to go alone.

## 和訳 ミアッカさん（Mr. Miacca）

トミー・グライムズは、いい子のときもあれば、悪い子のときもありました。そして悪い子のときは、とっても悪い子でした。おかあさんはいつもトミーに言っていました。「トミー、トミー、いい子にしていなさい。この通りから出てはいけませんよ。でないと、ミアッカさんにつれていかれますよ。」それでもトミーは、悪い子のときには通りから出ていってしまいました。そしてある日、思ったとおり、角を曲がったとたんにミアッカさんにつかまって、さかさまにふくろへぽいと入れられ、ミアッカさんの家へつれていかれてしまいました。

家に入ると、ミアッカさんはトミーをふくろから出して下におろし、うでや足をさわってみました。「ちょっとかたいな」とミアッカさんは言いました。「でも、夕食はおまえしかないし、ゆでればまずくはないだろう。おっと、しまった、ハーブをわすれた。ハーブがなければ、にがい味になってしまう。サリー！おーい、サリー！」と、ミアッカさんはおくさんをよびました。

するとミアッカおくさんがとなりのへやから出てきて言いました。「なんの用？　あなた。」

「ほら、夕食にする小さな男の子だよ」とミアッカさんは言いました。「それなのに、ハーブをわすれてしまってね。とってくるあいだ、この子を見ていてくれないか。」

「いいわよ、あなた」とミアッカおくさんが言うと、ミアッカさんは出かけていきました。

するとトミー・グライムズはミアッカおくさんに言いました。「ミアッカさんは、いつも夕食に小さな男の子を食べるの？」

「たいていはね、ぼうや」とミアッカおくさんは言いました。「小さな男の子がとっても悪い子で、あの人の通り道にいたらね。」

「男の子のお肉のほかに、何も食べないの？プディングは？」とトミーはききました。

「ああ、あたしはプディングが大すきさ」とミアッカおくさんは言います。「でも、あたしみたいな者には、めったにプディングなんか食べられないのよ。」

「あのね、ちょうど今日、ぼくのおかあさんがプディングを作っているよ」とトミー・グライムズは言いました。「ぼくがたのめば、きっと分けてくれると思うな。ひとっ走りして、もらってこようか？」

「まあ、よく気のきく子だこと」とミアッカおくさんは言いました。「でも、ぐずぐずしないで、夕食までにはかならずもどってくるのよ。」

そこでトミーはいちもくさんにかけだしました。こんなにうまくにげられて、ほんとうにうれしかったのです。それからずいぶん長いあいだ、トミーはとびきりのいい子で、一度も通りの角を曲がりませんでした。けれども、いつまでもいい子ではいられませんでした。ある日、トミーは角を曲がってしまいました。運の悪いことに、曲がったとたん、ミアッカさんにつかまって、ふくろにぽいと入れられ、家へつれていかれました。

家につくと、ミアッカさんはトミーをふくろからおとしました。そしてトミーの顔を見ると言いました。「ああ、おまえは、わしとかみさんにひどいいたずらをして、夕食ぬきにしたちびすけだな。よし、もう二

度とそんなことはさせないぞ。こんどは、わしが自分で見はってやる。ほら、ソファーの下に入れ。わしがその上にすわって、おまえのためになべがにたつのを見はっていてやる。」

そこでかわいそうなトミー・グライムズはソファーの下にもぐりこみ、ミアッカさんはその上にすわって、なべがにたつのを待ちました。待って、待って、待ちましたが、なべはなかなかにたちません。とうとうミアッカさんは待ちくたびれて言いました。「おい、下にいるおまえ、もうこれ以上は待たないぞ。足を出せ。にげられないようにしてやる。」

そこでトミーが足を一本出すと、ミアッカさんはなたを持ってきて、その足を切りとり、なべにぽいと入れました。

とつぜんミアッカさんはよびました。「サリー、おまえ、サリー！」でも、だれも返事をしません。そこでミアッカさんがおくさんをさがしにとなりのへやへ行くと、そのすきに、トミーはソファーの下からはいだして、戸口から走ってにげました。じつは、トミーが出したのは、ソファーの足だったのです。

こうしてトミー・グライムズは走って家に帰り、ひとりで出歩ける年になるまで、二度と角を曲がりませんでした。

# たんご と クイズ ミアッカさん

| | | |
|---|---|---|
| **street** 通り | **bag** ふくろ | **herbs** ハーブ（香りのある草） |
| **pudding** プディング | **sofa** ソファー | **pot** なべ |
| **leg** 足 | | |

**Q1** おかあさんは、通りから出ると何がおこると言っていた？

① おばけが出る　② 道にまよう　③ ミアッカさんにつれていかれる

**Q2** トミーは、ミアッカおくさんに何を持ってくると言ってにげた？

① プディング　② お金　③ ハーブ

**Q3** ミアッカさんが切ったのは、何の足だった？

① トミーの足　② ソファーの足　③ いすの足

**こたえ**

Q1 ③ おかあさんは「通りから出ると、ミアッカさんにつれていかれますよ」とトミーに言いきかせていました。

Q2 ① プディングが大すきなおくさんに「おかあさんのプディングをもらってくるよ」と言って、うまくにげだしました。

Q3 ② トミーがソファーの下から出したのは、じつはソファーの足でした。トミーはそのすきににげました。

**原田英語の多読ベストジュニア**

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

**出典**　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #7439（Joseph Jacobs、1890年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Joy Chan（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。